

2018年度 事業計画書



理事長メッセージ



—地域に根ざし、世界にはばたく—

学校法人桃山学院 理事長 出田 善蔵

桃山学院は1884（明治17）年、英国聖公会宣教協会（CMS）が大阪の川口外国人居留地（大阪市西区）に三一小学校（男子英学校）を創設したことに端を発します。以後、高等英学校や中学校の開設、キャンパスの移転など幾多の変遷を経て、現在、昭和田キャンパスに中学校と高等学校を、和泉キャンパスに大学と大学院を設置するに至りました。2019年度には「学院創立135周年・大学開学60周年」を迎えます。

本学院は、創設以来一貫して建学の本旨であるキリスト教精神に基づいた教育を行い、永い歴史のなかで優秀な卒業生を多数輩出し社会から高い評価を得てきました。このことは、本学院にとって何にも勝る誇りであり、同時にその方向性が正しかったことを顕しています。

しかしながら、少子化や経済状況の影響等により、私学をとりまく環境は年々厳しさを増し、本学院も少なからずその影響を受けていますが、この伝統ある学院の事業を継承し、かつ発展させるべく2013年度からは第二期中長期ビジョンに基づく堅固な経営基盤の構築を図るとともに、学院内各学校における教育・研究・社会活動の目標達成に向けて新たなスタートを切りました。

2017年度では、特に学院全体のガバナンス体制強化に向けて、理事長の下に設置したガバナンス検討会議にてその具体的な方策を検討しました。大学では学長の下で大学中期計画が策定され、新学科構想が出されました。中学・高校においては、校長の指揮のもとさらなる教学改革に取り組みました。加えて2018年度からは本学院が、設置者変更によるブール学院大学の継承を文部科学省から認可され、新たに「桃山学院教育大学」としてスタートを切ることとなり、その開設に向けた各種の準備を精力的に進めてまいりました。

2018年度は、「桃山学院教育大学」の開設により本学院として、2大学と高校、中学の4校を、新たに加わる堺キャンパスを含め3つのキャンパスで運営することとなります。このことも含め法人として、学院全体として今後の中期的な将来構想を策定していく予定です。施設面では学生・生徒の勉学環境と満足度の向上を図るべく、和泉キャンパス（大学）および昭和田キャンパス（中学校高等学校）の改修を長期的な観点から引き続き実施していきます。新たに加わる堺キャンパス（教育大学）も他のキャンパスと同様、改修等必要な設備投資を行うとともに、あわせて教育の質および教学内容の向上に向けて各種の取り組みを鋭意実施していく予定です。そのためにも、教育活動収入としての定員の長期的な確保に加え、補助金収入、寄付金収入、資産運用収入など学生生徒納付金以外の収入の増加を図り、安定的な財務構造の構築を目指します。

また、特に重要な課題である大学改革については、新学部・学科設置を始め大学中期計画で検討された教育の質向上に向けた取り組みを、理事会としても財務面を中心に最大限のバックアップを行い、大学の評価上昇に繋げていきたいと考えています。幸い大学の入学志願者は近年少しずつ増加していますが、引き続き必要な入試対策を行うとともに、出口対策として学生の就職対策にも鋭意取り組んでまいります。

同時に、重要課題であるガバナンス強化では、理事会、理事長および各校長の権限と責任の明確化を図り、法人および各学校における迅速な意思決定によって学院の運営がより円滑となるよう、その体制整備に邁進します。ガバナンス検討会議にて検討しました具体的施策を、理事会にて検討、決定のうえ、実施していく所存です。

本学院としましては、学院内各学校の永続性および発展性を担保し、かつ教育・研究活動の環境整備を行うに適切な財政対応が必要な時期であることを十分に認識し、ここに2018年度の事業計画を策定しました。各事業計画については、PDCAサイクルを十分に稼働させ各々の計画の達成度を確認し、達成できなかった場合はその原因と改善策を探り、より有効なものとなるように進めてまいります。これにより教職員の意識改革も図っていく所存です。

本学院のさらなる発展と使命達成、および社会からより評価される学院となることを目指し、教職員が一体となって鋭意努力してまいりますので、皆様方の一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

CONTENTS

理事長メッセージ.....	1	桃山学院教育大学事業計画.....	4
桃山学院大学事業計画.....	2	桃山学院中学校高等学校事業計画.....	5



事業計画の策定にあたって

桃山学院大学 大学長 牧野 丹奈子

桃山学院大学は、「キリスト教精神に基づく世界の市民の養成」を建学の精神として 1959（昭和 34）年に設立され、2019（平成 31）年に開学 60 周年を迎えます。「世界の市民」とは、異なる価値観を認め、自分の考えも伝えることができ、世界のどこでも誰とでも協働できる人を指し、これまでに約 7 万人の卒業生と修了生を輩出しています。

桃山学院大学では、2017 年度から 2021 年度までの大学中期計画を実行中です。大学中期計画は、「復権」と「飛躍」という二本柱から成る 29 のアクションプランで構成されています。

2018 年度は大学中期計画の 2 年目であると同時に 2019 年度の中間地点の準備を行う重要な年と位置づけています。

特に「飛躍」の面では、2019 年度に設置予定の経営学部ビジネスデザイン学科の開設に向けた準備を滞りなく進めます。学ぶ場所についても、教育の特色を十分に生かすため大阪市内にキャンパスを新設します。予測困難で変化の激しい時代と言われる中、いつの時代でも求められる「世界の市民」をこれからも養成します。

■ 2018 年度の主な事業について

<初年次教育の改革>

初年次教育に関連し、特に入学前教育および新入生オリエンテーションの充実を図ります。

<三位一体教育プログラムの推進>

学生・教員・職員を教育の主体と捉え、三者がそれぞれの特長と強みを活かしながら教育活動を行うことで、学生に多様な人から学ぶ機会を提供する「三位一体教育プログラム」を推進します。2018 年度は、1 年次生のクラスにおいて上級生学生がスタッフとして関わる機会を増やします。

<カリキュラム改革>

学部を問わず初年次に共通して基盤となる学力を身につけられるよう、社会のニーズ等も踏まえた現代的な共通教育科目を構築するとともに、学修効果を高める履修制度の更なる整備を進めます。

<創造力、実践力を高める教育の推進>

経営学部ビジネスデザイン学科の設置（2019 年 4 月）に続き、創造力、実践力を高める教育を大学全体に展開するため、学部、学科の設置・改組等の組織の検討、コースやプログラムの設置計画を取りまとめます。

加えて、リーダーシップ教育を柱として他大学（早稲田大学、名古屋大学）と連携した教育プログラムを新たに実施します。

<大学院の改革>

社会のニーズに対応した大学院教育・特徴ある大学院づくりに向け、将来構想案を策定します。

<研究成果による社会貢献の推進>

教員の研究および総合研究所の共同研究プロジェクト等の研究成果を広く社会に公開し、教育や社会の発展に寄与していくため、研究成果の「見える化」を一層推進します。

<地域連携に関わる窓口強化>

社会連携の更なる充実に向け、組織的な整備をさらに推進します。2018 年度より本格稼働する地域連携機構を中心に、ビジョンである「地域で、世界で、人を支える」を具現化する活動を行います。

<長期派遣留学準備コースの設置>

2017年度には、長期派遣留学を目的とし、専用の少人数講義で英語力を徹底的に鍛える Super Global Program(SGP)を立ち上げました。2018年度は本プログラムをさらに推進し、2019年度の派遣に向けた準備を行います。また、高大接続の趣旨も踏まえた入試制度への発展に向け検討を進めます。

<文部科学省「高大接続改革」への対応>

変化の激しい時代において新たな価値を創造していく力を育成するために、文部科学省では高大接続改革が進められています。その中の大学入学者選抜改革では①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の学力の3要素を多面的・総合的に評価する入試方法が求められています。

本学においても、この趣旨に、本学の建学の精神である「世界の市民の養成」も踏まえた入試制度について、2020年度入試（2019年度実施）からの導入を予定し、準備を進めます。

<近畿外での認知度アップ>

広く本学の知名度を高めるべく、高い実績を持ち、大学スポーツとしても人気のあるサッカー部およびアメリカンフットボール部の強化を行い、その活動を広くアピールします。

<キャリア教育科目の充実>

学生が入学時から自己の職業人生と「大学で学ぶこと」が結びつくことの重要性に気づくことや、学生生活を通じてその結びつきを学生が主体的にデザインできるように、キャリア教育科目のより質的な充実を図ります。

キャリア教育専門の講師を採用し、個性あるカリキュラム作成を進めていますが、さらに体制を強化し、本学の学生に適したキャリア教育を進めます。

<外国語授業等における交換留学生を活用した（SA制度、TA制度とは異なる）新たなスタッフ制度の設置>

全学的な留学に関する統括組織を設置し、外国語教育の充実、学部教育と国際交流の効果的な連携について検討・推進します。また、大学全体で異文化間交流を促進し、学生の海外に対する関心を高めることを目的として、授業や課外講座において、留学生がスタッフとして関わる機会をさらに増やします。

以上



事業計画の策定にあたって

桃山学院教育大学 大学長 梶田 勲一

今年度より桃山学院の二つめの大学「桃山学院教育大学」が開設されました。

本学は、キリスト教精神にもとづき、人間教育の理念に沿った教育を徹底し、教育界をはじめ、多様な世界で広く活躍できる人を育成してまいります。そのためには、本学の教職員が丸となって、「チーム桃教」として、自分磨きをしようとする学生を徹底的にサポートし、結果責任を果たせる組織づくりを目指してまいります。一からのスタートとなりますが、策定した計画を着実に実現してまいります。

■ 2018年度の主な事業について

<免許・資格課程の充実と入学定員増>

2018年度は、2020年度に2免許（中学・高校英語教員免許・国語教員免許）1資格（日本語教員資格）を増やすための事前相談、届出および申請に向けた検討を行います。また、免許・資格課程が増えることに伴い、入学定員を175名から250名に増員するための検討を行います。

<大学院の設置>

学部教育の充実とともにさらに専修免許状を取得できるように大学院の設置を検討します。これにより、社会人や現職教員の学びなおし等の要請に応えます。

<教員採用試験合格対策「十一人の侍」大作戦>

これまでのチューター制度による少人数教育に加え、教員有志11名による徹底した教員採用試験対策プログラムを試行的に実施します。これは教員を本気で目指す学生を募り、5名を1組として1名の指導教員を配置し、合計11グループを形成します。1年次より教員採用試験の筆記試験を突破できる学力を養い、そのために求められる教員のあり方、チームのあり方を追究します。

<公務員採用試験対策の充実>

これまであまり採用実績のなかった公務員採用試験について、合格者数を増やすための対策を講じます。多くの実績を残してきた職員が、受験先に応じたきめ細かな対策・指導を実施します。

<国際交流プログラムの充実>

学生が多くの気づきと多様性を理解することができるように、国際交流プログラムを充実させます。そのために本学独自のプログラムとして、カンボジアにおける国際交流プログラムを立ち上げます。今年度は、2017年度に視察をしたカンボジアメコン大学との共同プログラムを検討します。同時に安全と健康に留意し、目的が達成できるようなプログラムづくりを行います。また、桃山学院大学との連携により、短期語学研修を実施します。

以上



事業計画の策定にあたって

桃山学院中学校高等学校 校長 岡田 賢三

○桃山学院が目指すもの○

私たち教職員は本校の教育目標についての思いを共有しています。それは私たちの教育的使命を表明したミッションステートメント（下記参照）にも示されている通り「健全な社会の実現に貢献できる若者を育成する」ことであります。ではそういう健全な社会の実現に貢献できる若者とはどういう若者でありましょうか？それは言うまでもなく「社会に貢献できる実力を備えた若者」です。そしてその実力を培う場が桃山学院中学校であり桃山学院高校であります。

中学創立や男女共学化の大きな変革に関わられた当時の校長は、その実力を「目に見える実力」と「目に見えない実力」という2つの言葉で表しました。また、後の校長はさらに明確にそれを「学力」と「人間力」という言葉に置き換えました。

いずれにせよ、私たちが先ず目指すものは「学力の向上」です。特に進学校としての桃山学院中学校高等学校に求められているのは各自が志望する大学に合格する学力を身に着けることができる学校であることだと信じております。そのため、私たち教職員一同は力を合わせ、切磋琢磨しながら生徒たちの学力向上に取り組んでまいります。ただし、学力だけでは「健全な社会の実現に貢献できる実力」とは言えません。そこに必要なのは「目に見えない実力」つまり「人間力」です。数値としては表せない精神力や協調性、そして他者への思いやりや責任感など、人からの信頼を得るために必要なこれらの資質こそが社会に出て必要な実力といえるでしょう。

そしてその実力を育てる場こそが桃山キャンパスです。自由な校風の中で育まれていく友人同士の関わりや生徒一人ひとりの個性を重んじる教員集団、さらには主体的に運営されるさまざまな行事などによって、それらの実力が養われていくものと確信しています。ですから私たち教職員一同は、思いをひとつにして、生徒たちの人間力の向上を図ってまいります。

ミッションステートメント

桃山学院中学校高等学校は、自由と愛の精神に基づく学びの場として、生徒一人ひとりを大切に、個々の生徒が持つ多様な可能性を开花させ、健全な社会の実現に貢献できる若者を育成することを使命とする。

■ 2018年度主な事業について

＜大学合格実績の向上＞

2019年度大学入試において国公立合格者の増加を目指し、各教科・高3学年団・コース主任・進路指導部が連携して綿密な進路指導を行います。

＜教員指導力の向上＞

教員相互の授業見学を実施することにより教員の指導力の更なる向上に努めます。

＜生徒の安全確保への備え＞

大規模災害等への備えとして「地震火災訓練」の実施、大阪府による「大阪 880 万人訓練」への参加、特定の場面を想定した不審者侵入対策訓練を行い、生徒の安全確保に努めます。

＜国際教育の推進＞

より多くの生徒に海外研修や留学を経験させ、国際教育の推進を図ります。2018年度においては、アジアの高校との生徒交流を促進するとともに、広く海外からの留学生受入開始に向けた準備を行います。

＜生徒支援の充実＞

2016年度より設置した生徒支援委員会による教員対象研修会を実施し、教員の生徒支援についての学びを深めます。

<社会活動の推進>

SBS(School By School:学校による学校建設プロジェクト)活動では、インドでの3校目の学校建設を行います。また、被災地ボランティア活動、地域の保育園との連携事業を積極的に推進します。

<キャンパス整備の推進>

安全で快適なキャンパス創りのため、聖アンデレ館男女トイレの洋式化工事と女子トイレの増設を行うとともに、防犯カメラの増設工事を実施します。

以上